

科目名	異文化間教育とコミュニケーション1～4
授業の目標・ねらい	<p>「登録日本語教員養成コア・カリキュラム」に示された一般目標、「文化の多様性を尊重し、異なる文化背景を持つ者同士の円滑なコミュニケーションを実現するために、文化を異にする者の物事の捉え方やコミュニケーション方略について理解する」に準じ、以下の到達目標に向かって学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる文化を持つ人々の間で生じる様々な問題を克服し、文化の多様性を尊重し、異なる文化背景を持つ者が共生に向けて円滑な関係を築くために必要となる異文化間教育に関する基礎的な知識について理解している。 ・異なる文化的背景を持つ人々と円滑なコミュニケーションを行うために必要な知識とスキルを理解している。 ・学習者の日本語によるコミュニケーション能力を育成するために、コミュニケーション教育の理論及び手法について理解している。
授業内容・授業方法	<p>「文化とは何か」「文化と文化が接触するとき」「コミュニケーションとは何か」「異文化間コミュニケーションとは何か」「日本語教師にとっての異文化理解とは」等のテーマで4コマの授業を進めます。身近な具体例から考えることで、「カルチャーショック」「文化化」「異文化接触」「異文化適応」から「コミュニケーション」に至る基礎的な知識や用語を整理します。また「学習者の権利、国際・比較教育、国際理解教育、開発コミュニケーション、異文化マネジメント、コミュニケーションに関する言語間対照」等についても考えます。基本的には参考文献やプリント等を参考にしますが、受講される皆さんと毎回一緒に「考える」ことを重視しながら進めたいと思います。柔軟に考えたりお互いに意見を言い合うことで、知らず知らずのうちに自分の中に育まれてきた自文化に対する思いや多文化に対するイメージに気づいたり、新たな発見を得たり知的好奇心が刺激されたりすることを期待しています。</p> <p>※「登録日本語教員養成コア・カリキュラム」5つの全体目標「(4)言語と教育」、15の一般目標(15下位区分)「⑩異文化間教育とコミュニケーション教育」(必須の教育内容:<32>異文化間教育、<33>異文化コミュニケーション、<34>コミュニケーション教育)に対応</p>
予習・復習	予習:参考書等で異文化間教育の現状について調べておくことをおすすめします。

	復習：授業で扱ったトピックについて、さらに詳しくご自分でも調べたり考えたりすることが望まれます。
使用テキスト	プリントを配付します。
参考書等	鍋倉健悦(2009)『異文化コミュニケーション入門』丸善ライブラリー(新書)八代京子・世良時子(2010)『日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル』三修社／他
講師	村澤慶昭
所属	武蔵野大学グローバル学部
研究分野	音声学、日本語学、日本語教育学、年少者日本語教育
講師紹介	日本語以外の母語話者に対する日本語教育の実践、年少者に対する日本語支援の他、日本語教育に興味のある学生さんや一般の方々に日本語教育関連の科目を教えています。また、教材開発等にも携わっています。